

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

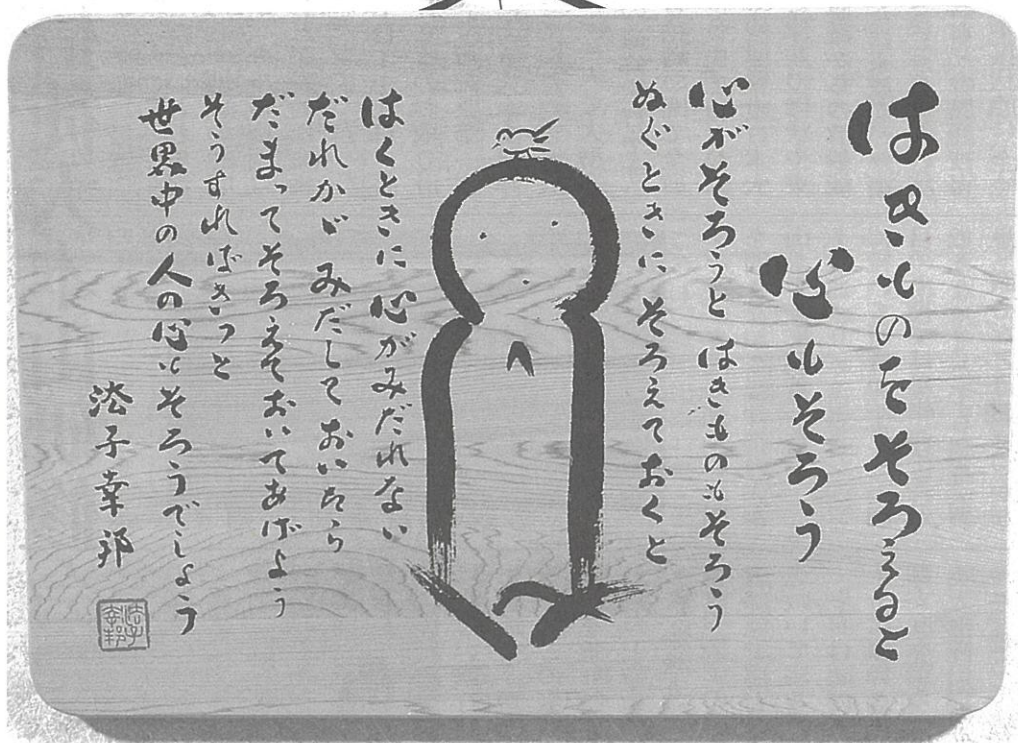
〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋翠・室賀清輝  
高橋利春・加瀬由紀子・屋代健  
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください



故 藤本幸邦老師の書かれた詩

## 他の人を少し思うだけで「心がそろろう」

翠巖龍弘

日本各地での猛暑、日本列島のあちこちでの集中豪雨で多大な被害をもたらした夏も、ようやく過ぎさろうとしております。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われておりますが、この季刊紙が皆様の手元に届くころは過ぎし易い季節を迎えていることと存じます。

上の写真は、平成二十年十二月に百歳で遷化された、長野市円福寺東堂御老師の作で、御老師自ら書かれた詩です。御老師については今までもご紹介させていただきましたが、季刊紙の第四十二号、四十八号などを再読していただけたらと存じます。

『はきものをそろえようと 心がそろろうと はきものもそろろうと ぬぐとまにそろえておくと 是れか 心がみだされぬ だれか 心がみだされぬ』

おいたら だまってそろえておいてあげよう そうすればきつと せかいじゅうの ひとの心もそろおうでしょう』 この詩は日本中で有名になり、今日においても大勢の方々に愛用されております。今の時代、この詩が、詩の心が日本をはじめ、世界にとっても重要であると強く感じられます。

お斎などの席で料理屋さんのお手洗いを使わせていただくことがあります。スリッパを履こうとすると、なん足もある左右のスリッパがあちこちに乱れており苦労することがあります。最初

はきちんと履き易いように揃えておかれたものと思えます。使うお客様は気持ちよく履いたはずですが、後の人のことを考えずに揃えずにぬぐ。そういう人が多いことです。安善寺のトイレも気がつくとき、きちつと揃えておきます。夕方見ますと乱れておることが多々あります。

お盆の後、八月十七日に墓地の大掃除をお手伝いをしてくださる方々と山内総出でしておりますが、毎年感じることがあります。本堂の前にはゴミ入れ籠を常置しておりますが、墓参りに来られた人の中で、古い花や新聞紙等を籠の所まで持つてくるのが面倒なのか、墓地の隅や空いている所へ捨てる人がいます。すると後からの人もそこに捨ててよいと思うのか、知らないうちにゴミの山になります。片付ける人のことを考えないのでしょうか？

ちよつとした心遣いで、他の人のことを少しでも思う気持ちや、ポイ捨てもなく履物が揃い、日本中、世界中の人の心がそろい、争いのない笑顔が溢れる世の中になるのではないのでしょうか。

お盆の後、八月十七日に墓地の大掃除をお手伝いをしてくださる方々と山内総出でしておりますが、毎年感じることがあります。本堂の前にはゴミ入れ籠を常置しておりますが、墓参りに来られた人の中で、古い花や新聞紙等を籠の所まで持つてくるのが面倒なのか、墓地の隅や空いている所へ捨てる人がいます。すると後からの人もそこに捨ててよいと思うのか、知らないうちにゴミの山になります。片付ける人のことを考えないのでしょうか？



# 壇信徒大本山研修会に参加

太刀川善之助

限界にきたといわれる温暖化がもたらす地球の悲鳴でしょうか、今年の梅雨は猛烈な酷暑と記録的な豪雨に見舞われた夏でした。

七月十七日～十九日、菩提寺安善寺さまのお取り計らいで曹洞宗新潟県第一宗務所主催による大本山研修に参加させていただきました。総勢四十一人で大型バス一台での研修旅行です。

新潟から柏崎の間で全員が揃ってから、先ずDVDによる「入権」の研修。東日本大震災による津波の惨状や東電の福島原発からの放射能被害で、未だに家族がバラバラに暮らさざるをえない状況や農作物などの風評被害による販売不振状態に全く罪のない人々が苦しみを耐えながら生活している姿に涙を誘われました。

フオッサマガナの地溝により糸魚川の奴奈川で日本列島が二つに分断されている不思議を想像し、ベテラ



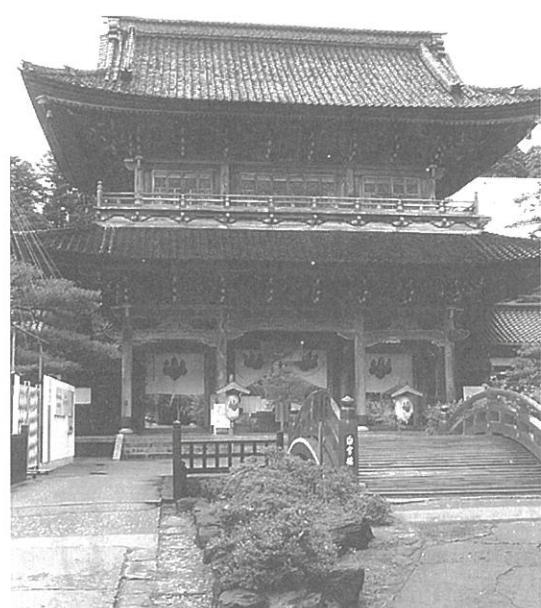
永平寺 入口

ンガイドさんの楽しい説明を聞きながら福井県の大本山永平寺に到着した。

早速オリエンテーションに続いて研修が始まる。一回目の坐禅では足組(扶坐)ができなくてとても調身・調息・調心などはおぼつかない方が辛がっている姿もありましたが、安善寺さまで十数年坐禅会に参加している私にとっては、心休まる安息のひとつときでした。

の美味しさにビックリ。食後は坐禅(夜の坐禅)と法話。講師は以前「授戒会修行をした田上の東龍寺」住職の渡辺老師だったので、懐かしさもありました。続いての映画「永平寺の一年」は厳しい修行僧の姿を追った構成で、曹洞宗の僧侶の方々はこの厳しい数年間の修行を乗り越えられたのだと思うと尊敬の念を抱きました。午後九時には開枕(就寝)で男子の研修生全員が大部屋で協力しながら布団を敷いて寝る。

翌日はまだ真つ暗な三時十分に振鈴(起床)で洗面と身支度を整え、三十分後には暁天坐禅(朝の坐禅)が始まった。続いての朝の勤行では焼香をさせていただきました。諸堂拝観は七堂伽藍などの多くが登り下りの多い所に建てられていて、説明を聞きながら長い距離を歩き回りましたのでかなり疲れました。



總持寺祖院 山門

七時に小食(朝食)をすませた後は閉講式で、老師やお世話になった僧侶の方々を受講者を代表して謝辞を述べさせていたたい下山。永平寺での研修は終了しました。

朝九時三十分にバスは大本山永平寺を出発、能登に向けて渚を走る千里浜ドライブウエーを通って昼食後「曹洞宗大本山總持寺祖院」を参拝。しかし、あれ？ 横浜の鶴見に大本山總持寺があるのに、ここにも大本山總持寺だとは？ 祖院て？ 歴史を聞いてようやく納得する。螢山禪師が能登の地に開創された千三百二十一年から明治四十四年に鶴見に移転するまで五百九十年の間、一万五千か寺の根本道場として発展してきた、いわば曹洞宗總持寺の祖院だそうです。確かに螢山禪師の証しの伝燈院や経堂をはじめ多くの伽藍があり、奥能登の名刹といわれているお寺でした。

この祖院も階段の多い境内なので歩き疲れましたが、この日の宿泊は能登和倉温泉の素晴らしいホテルの美湾荘で参加者が大いに楽しみましたし、第一宗務所の松井所長や同行の御住職様の心配りにも感謝しました。

三日目は、まず太祖螢山禪師が開山された洞谷山永光寺に参拝。このお寺は門前町に總持寺が開創される以前に螢山禪師さまのが開山された寺で、「ひとえに五老峯(天童如浄・永平道元・孤雲懷奘・徹通義介・螢山紹理)の遺品が埋蔵されている」を崇拜せよ」と教えられ、伝燈院をはじめ歴史的な文化財や宗教的な環境は素晴らしく、更にご住職の漫談口調が混じり合つての説明は実に楽しかった。螢山禪師が遷化された所でもあり、墳墓に参拝できたことはとてもありがたかった。



# 【日々精進(二十二)】

## よくも悪くも、自分がお手本

近藤 真弘

夏が終わりようやく過ぎ  
しやすい季節がやってまい  
りました。先月八月は長岡  
まつりやお盆など行事も多  
く毎年ながら何かと  
忙しい月です。そんな八月  
も終わりに近い二十五日に  
長男の真人が三歳の誕生日  
を迎えました。二年間留守  
にしていたこともあり、あつ  
という間の三歳の誕生日、三  
つ子の魂百までなんて言い  
ますが、特にこの頃の成長  
の速さには驚かされます。  
言葉一つをとつてもあえ  
て教えているわけではない  
のですがどんな言葉覚え  
え、会話ができるようにな  
ってきます。やはり両親や、  
祖父、祖母の言葉を毎日聞  
いているので我々が使う言  
葉やしやべり方を最初に覚  
えているようです。



この時期は良いことも、  
悪いこともしっかり見て真  
似る時期だけに、親として

夏が終わりようやく過ぎ  
しやすい季節がやってまい  
りました。先月八月は長岡  
まつりやお盆など行事も多  
く毎年ながら何かと  
忙しい月です。そんな八月  
も終わりに近い二十五日に  
長男の真人が三歳の誕生日  
を迎えました。二年間留守  
にしていたこともあり、あつ  
という間の三歳の誕生日、三  
つ子の魂百までなんて言い  
ますが、特にこの頃の成長  
の速さには驚かされます。  
言葉一つをとつてもあえ  
て教えているわけではない  
のですがどんな言葉覚え  
え、会話ができるようにな  
ってきます。やはり両親や、  
祖父、祖母の言葉を毎日聞  
いているので我々が使う言  
葉やしやべり方を最初に覚  
えているようです。

は中途半端なことはできな  
いなあと改めて感じます。  
先日のですが、近所  
のコンビニに行くとき店頭  
いつも置いてあるゴミ箱  
が撤去されており、そこ  
はこんな内容の張り紙が貼  
ってありました。「四月のゴ  
ミの分別方法が変わってか

別している様子を見たこと  
もありました。ですから、今  
回のゴミ箱の撤去に関して  
は止む得ない手段ではない  
かと私は思いました。  
同じような出来事がお寺  
でもあります。お盆の時期  
の本堂の前に置いてあるゴ  
ミ箱です。数年前に本堂の脇  
にゴミ箱を置いていたのを  
本堂の前に小屋を作り、ゴミ  
捨て場所を新しく設置しま  
した。当初は小さな札に「生  
花以外は捨てないでくださ  
い」と書かれたものを張って  
いましたが、やはりその他の  
物も多く捨てられていまし  
た。そこで花の包んであった  
新聞やビニールなどは仕方  
ありませんが、缶やビン、ペ  
ットボトル、蠟燭立てなどは  
絶対に捨てないで下さいと、  
今度は大きめの張り紙をし  
ました。特にビンや蠟燭立て  
は回収の際怪我をする恐れ  
もあり危険です。

そして今年のお盆はどう  
だろうとゴミの回収に行く  
と、残念ながらペットボト  
ルや蠟燭立てが捨てられて  
いました。量からしたらほ  
んの少しで大多数の方はし  
っかりと分別されていまし  
たが、その少しのためにが  
っかりさせられました。  
前の話でも、お寺の話で  
も、駄目と言われているも  
のを捨てている人はほとん  
どが駄目とわかっていな  
がその行為をしていると思  
います。その根本には見つ  
からなければいいやという  
気持ちがあるのではないで  
しょうか。どうせ後のこと  
は自分はやらないし、どう

ら家庭ごみの持ち込みが多  
く分別が困難なためゴミ箱  
を撤去させていただきまし  
た」こんな内容です。  
この店のゴミ箱の前には  
以前から家庭ごみを捨てな  
いで下さいと張り紙があり  
ました。店の店員の方がゴ  
ミ箱の中のゴミを細かく分

せ自分が捨てたつてばれる  
わけがないし、そんな気持  
ちがあるのではないでしょ  
うか。誰も見ていないから  
いいや、そんな気持ちは誰  
しもが一度は思うことだと  
は思います。私も思ったこ  
とはあります。  
門前の小僧習わぬ経を読  
むという言葉があります。  
私の息子も教えてはいませ  
んが最近よくお経を口ずさ  
んでいます。私にとっては  
子供が自分を律する存在で  
す。誰かがみているかもし  
れない、自分を模範にして  
いるかもしれない。そんな  
思いを持つ大切さを感じる  
出来事でした。

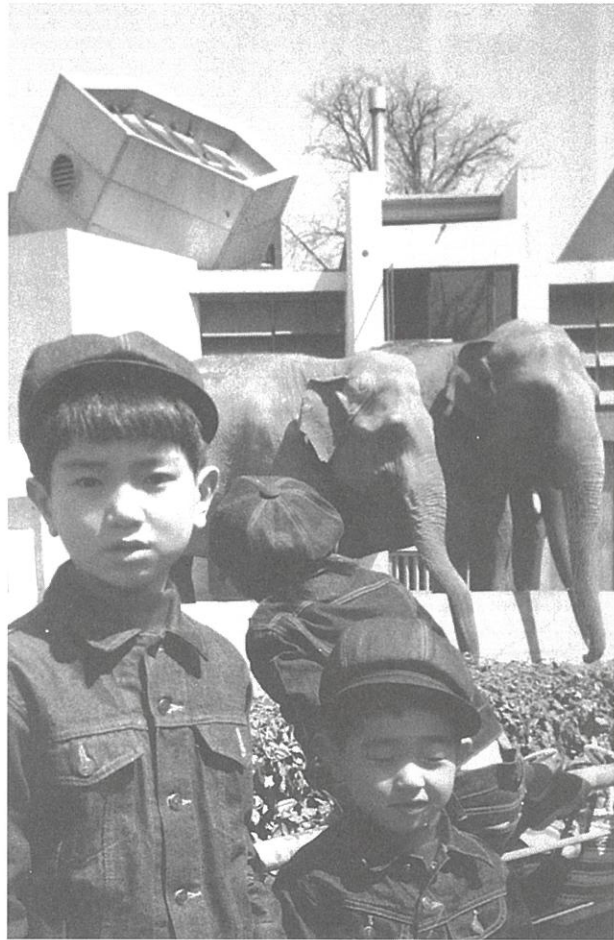




全国には百を超える動物園がある…

# 動物園巡礼 ③

大浦方 明



全国あちこちの動物園を巡っているとお話しすると、大浦方さんの一番のおすめはどこですか？ とよくご質問を受けます。やはり旭山動物園ですか？とも…。そんな時、私は「みな個性があつて優劣をつけるのは難しいですが、あえて一番といえは上野動物園です」とお答えします。今回は私の

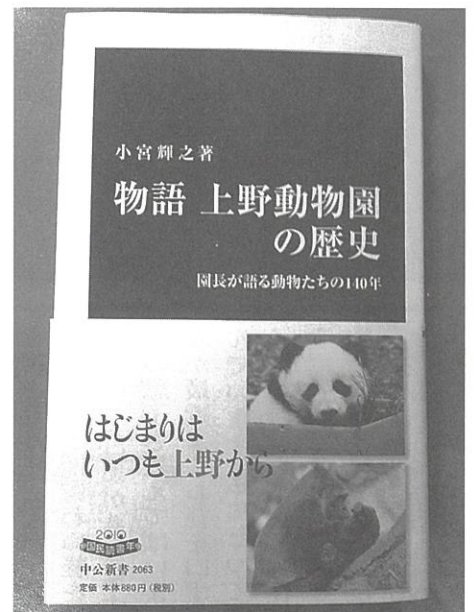
好きな上野動物園をご紹介します。上野動物園正式名称は「東京都恩賜上野動物園」。明治十五年に開園し百三十一年の歴史を持つ、日本で一番歴史のある動物園です。ちなみに恩賜と付くのは大正十三年、当時の皇太子(昭和天皇)のご成婚を記念して宮内省から東京市に下賜さ

れたことによるものです。今でこそ上越新幹線は東京駅まで行きますが、昔はわれわれ新潟県民にとって東京の玄関口といえは上野。その上野駅から歩いてすぐなので、みなさんも何回か行かれたことはあるのではないのでしょうか。ご多分に漏れず私の動物園デビューも上野動物園です。たま

たまその当時の写真があつたのでお見せしましょう。もう四十年近く前のものですが。

私があえて上野動物園を一番というのには理由があります。長い歴史と伝統、優秀なスタッフ、高度な飼育技術など、上野動物園は日本の動物園を常にリードしてきました。例えば、佐渡で軌道に乗ったトキの繁殖は、古くから上野動物園で近似種を使って研究した成果によるものです。

そして上野動物園には、話題のパンダ以外にも沢山の見どころがあります。童謡で有名なアイアイや、これも動物園の在来家畜。また園内の五重塔の周りで悠々と泳ぐ錦鯉は山古志産であることなど、挙げていけばきりがありません。今回は紙幅の都合上、とっておきの本を紹介するのでぜひこちらをご覧ください。小宮輝之著「物語上野動物園の歴史」(中公新書)です。小宮さんは2004年から2011年まで七年間、園長を務めた方です。斬新な



アイデアで次々に話題を捉え、特に世界初のクマの冬眠展示を成功させました。園長在任中、私は某テレビ番組を真似て心の中では、上野動物園ならぬ「小宮動物園」と呼んでいたほどです。小宮さんは動物園オタクを自称し、自分の楽しいこと、やりたいことを仕事として実践してきました。私は上野動物園に通ううちに親しくお話しさせていただくようになりましたが、その小宮さんから「本物の動物園オタク」と呼ばれたときは本当に嬉しかったです。これからはあちこちの動物園を巡ってオタク道を極めて

いきたいと思っています。最後に一つうんちくを。園内の東園と西園を結ぶモノレールは、正式名称を「上野懸垂線」といい、日本で最初に開業したモノレールです。けっして遊戯施設ではなく立派な交通機関です。わずか0.3キロ。一分半の所要時間ではありますが、ぜひ歴史を感じてみてはいかがでしょうか。





# 国際ソロプチミスト

## SOROPTIMIST

Best for Women

ソロプチミストと言う言葉を知らない方々も多いと思います。ソロ(姉妹)とオプティマ(最良)と言うラテン語から作られたもので、女性にとって最良のものと、言う意味があります。管理職、専門職に就いている女性の世界的な組織で、女性の人権と地位を高める奉仕活動をやっています。また、国連の経済社会理事会(E COSOC)の総合協議資



国際ソロプチミスト長岡のメンバー

格を持った、女性のための数少ないNGO(非政府組織)ですから、女性には心強い組織と言えます。

1921年、カルフォルニア州オークランドで女性八十名で結成され活動しました。以来世界各地で女性の社会的役割に関心が高まり、今では世界120カ国

に約九万人以上の会員がいる程に成長発展しました。現在はイギリスのケンブリッジに本部を置き四つの連盟に分かれております。日本はアメリカ連盟に属しております。

日本では初めてクラブが誕生したのは1960年です。その後奉仕の輪は日本各地に拡がり、二十六年後には「中央・東・西・南・北」の五つの地域(リジョン)に分かれ、各地域のニーズに応じた活動を行っています。

新潟県は「日本東リジョン」に所属しており八つのクラブがあります。そのうちの二つのクラブが長岡市で「国際ソロプチミスト長岡」と「国際ソロプチミスト長岡くみづほ」とあります。

取材させていただいた、国際ソロプチミスト長岡の三十代会長を青木千衣子さんが今年六月までやっておられました。青木さんは長岡の料亭かも川館の女将であります。四十五歳の時に大病を患いましたが、今では元気に社会復帰しております。



【青木千衣子さんプロフィール】新潟市生まれ、新潟商業高校卒、農林中央金庫新潟支店入社、結婚と同時に料亭かも川館へ、国際ソロプチミスト長岡前会長。

れます。早く治して活動を続けたいことを目標に頑張ってきたこと、この会では多くの諸先輩がおりますから、いろいろなアドバイスを戴けます。

一つの事でも三者三様の考え方があつたり、教えられることがばかりですが、会員の皆様と一緒に奉仕活動が出来ることが生きがいになつておられたようです。

今年の十一月十二日に新潟市の朱鷺メッセにてソロプチミスト日本財団平成二十五年年次贈呈式が行われます。新潟県で行われる全国大会です。準備が大変です。ソロプチミストとしてソロプチミズムに忠誠を誓い活動を継続して行きます。

「真摯なる友情」「偉業達成の喜び」「奉仕の尊さ」「誠実な職業」「国土愛」などを強調するその理想に忠実に従つて。

本業のかも川館について一言お伝えせねばならないでしょう。本館と別館があります。長岡で高級料亭として盛況です。本館ほどの部屋からもお庭が見え心地よい雰囲気を出しております。

表町一丁目に青木鮮魚店として創業し、戦災で料亭が少なくなつたことに危惧し、まずはかも川別館を、そして長岡会館を取得してかも川本館を開設しました。以来、長岡の社交場として活躍しております。

(編集部 小林取材)



# 「KAKA笑の会十周年記念」

# 五大路子さんに拍手喝采!

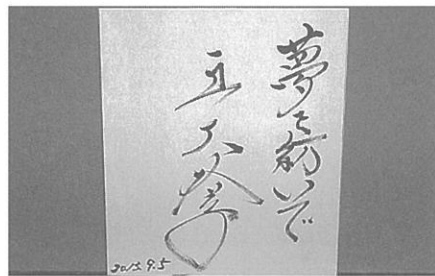


九月四日(火) KAKA笑の会・十周年記念に、女優五大路子さんにおいていただき、講演・一人芝居をやっていたきました。

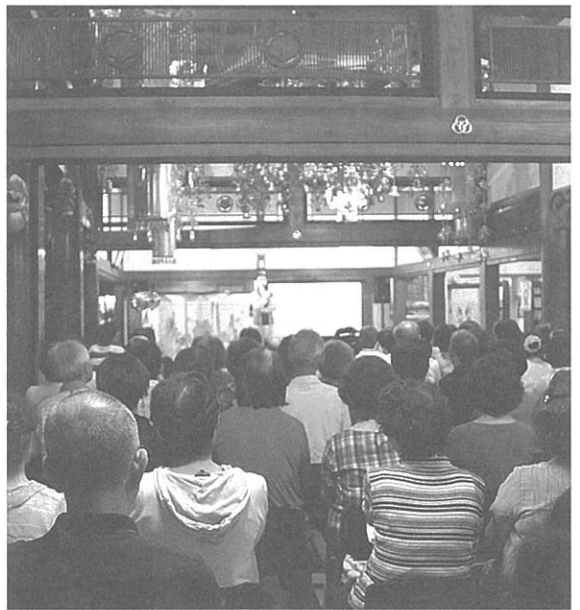
午後二時過ぎにお寺に到着、真直ぐに本堂に行かれ、お参りされた後、ときばきと会場づくりを率先してされ、休まれる間もなくリハ

ーサル・打合せ、講演前にはKAKA笑の会のスタッフが作った醤油赤飯・エゴ・ズイキなども長岡野菜を堪能されました。

午後六時三十分からの講演では、毎年八月に横浜・赤レンガ倉庫のホールで演じておられる「横浜ローザ」の中の歌を会場がしいーん!



となるくらいの迫力のある歌を交えながらの熱演。



DVDによる一代記、五分間の休憩を挟んで、戦前の劇作家代表作・一本刀土俵入り・臉の母など、長谷川伸の作品に登場する女性達を通して長谷川伸の心に出会う一人芝居を演じてくださいました。

- お別れ (平成廿五年七月〜八月末まで)
- 山口 健一様 七月一日寂 長岡市七軒町
  - 若林 正幸様 七月一日寂 三条市南四日町
  - 酒井美与吉様 七月二日寂 東京都練馬区
  - 堤源二郎様 七月十五日寂 新潟市中央区
  - 内藤 房江様 七月廿二日寂 長岡市上条
  - 小林 昇様 七月廿六日寂 見附市南本町
  - 室賀輝男様 七月廿七日寂 長岡市学校町
  - 佐久間仁様 八月十一日寂 長岡市殿町
  - 田中佐和子様 八月十八日寂 埼玉市
- ご冥福をお祈りします





# 旬歌 愁灯

[二十八話]

## 川の流れるのように

加瀬由紀子

パキスタンの辺境、ゴンドゴロ・ラ越えがにつくきタリバンの登山道封鎖で中止になったのは、六月末のことだった。(前号に掲載準備に準備を重ねて来た半年が徒労に終わる口惜しさに、脱力状態の日々を過ごしていた時、ツアー会社から電話が入った。

「インド・ヒマラヤに行きませんか？ストックカンリ登山に空気がありますよ。キリマンジャロより高い六一五三m、いかがですか？」即、申し込んだことはいうまでもない。

長岡まつりでにぎわう猛暑の町を後に、新幹線、成田エクスプレスと乗り継ぎ、夕暮の成田から全日空機はデリーへと向かう。

インデラ・ガンディー国際空港は、二年前に最新のターミナルが完成し、以前安善寺ツアーで訪れた時のさびれた空港といったイメージ

は全く消えていた。ブルガリ、シャネル、グッチ等のブランドショップが並び、ハーゲンダッツやゴティバ、スタバまである。インドのお土産ショップも数件。本屋、エステもある。

トイレも清潔な洋風便座で水回りも快適だ。(トイレこそは、近代化のパロメーター。以前は左側にバケツ、手桶があつて左手で洗って済ませるのが主流)。空港からホテルのバスに乗る。湿気と熱風に汗ばむ。(長岡の夏と変わりませんが夜中だというのに道路は渋滞。四車線が果ては六車線になって車の流れは途切れることがない。

バスの上を走る高速道路にもライトの波が続ぎ、地下鉄は六支線が稼働中という。巨大なショッピングモールがそびえ、路上に見かけた野良牛もゴミの山も見かけなくなった。



アンザイレン訓練中。中央が筆者

もはやインドは優雅にサリ一をまとつて裸足で歩く国から、近代的なアジアの大国へと変貌を遂げているのだと実感する。早朝の国内線フライトのため、ホテルで二時間の仮眠。再び空港に戻り、約一時間半でレーに到着。飛行機を降りたとき、クラクラとする。この地の標高は既に三七〇〇m。富士山並みの標高なので、日本からの普通の観光客は空港でぶっ倒れる人もいるとか。

トレッキング参加者八名ようやくレーのホテルに旅装を解き、午前中は休養、午後から市内観光。山の中腹にある白亜のシャンティ・ストーパを見学。日本の妙法寺の僧侶がインドの仏教徒と協力しての建立という。境内からも、ホテルの屋上からもひととき高いストックカンリの雪をまとつた姿が見える。あの頂に立つのだと闘志をみなぎらせ、皆、高所順応に努める。ついにその二日後、ジープは山麓のストック村に到着。殆どの車、店にドライ・ラマの写真やステッカーが貼られている。レーは中国に弾圧されているチベットよりもよりチベットらしい町で、ドライ・ラマへの信仰が篤い。イスラム教徒と共存しているのが面白い。何本も川を渡渉し歩き始めて六時間後、最初のキャンプ地に到着。この川こそ



下山中。高山病で顔がむくんでいます

パキスタンに入り、アラビア海まで延々三二〇〇キロを流れるインダス川の支流だ。が、「川の流れるように」などと歌う余裕はない。翌日も高所順応。二日後に至る。テント生活四泊目。アイゼン、ハーネス、ザイルを装着し、アンザイレンの練習を繰り返す。日本を出て八日目。深夜、星空に照らされて、頂上を目指す。凍結した氷河を歩き、水の流れるクレバスの横断に神経を使い、現地ガイドを先頭に標高を稼ぐ。ハーネスのカラビナにザイルを全員結び合う。もし滑落したら訓練通り、ピッケルで

停止姿勢をとれ！とガイドの指示が飛ぶ。息苦しいのは、酸素が薄いせいだ。出発時の星空は雪に変わり、ガスで視界が悪くなる。気温も下がり、喘ぎながら稜線・標高五八〇〇mに到着。ついに限界間近の数名(自分も)がここで下山の体力を温存して撤退。温度が上がる。氷河が危険だという。残り三〇〇mに二時間半を費やし、山頂に立ったのは三十代の二名と八ヶ岳のレスキューをしている男性だった。ガスで何も見えなかつた残念がる。無事に五八〇〇mまで登れたことに感謝。次回はネパール行きをめざします！



ボブの独り言

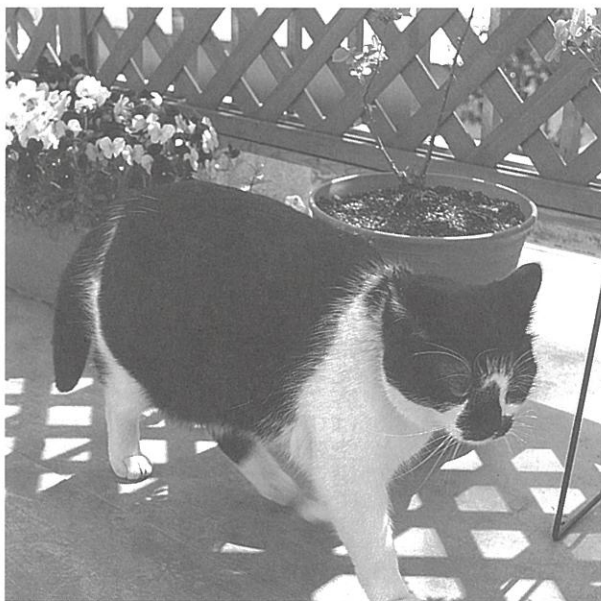
ちよつとうるさいけど、いないと淋しいです

ボブの独り言

暑くて暑くて...と、独り言を言いながら涼しさを求めて夜、外に出てもそんなに涼しくないどころか、最近はいきなり凄い雨が降ってくるものだからびしょびしょになって家に入ろうとすると、「ちよつと！ そのまま入らないで」なんて言われてしまいます。本当に雨の多い夏でした。

でもいつの間にか外は蟬の鳴き声に代わって、虫の音が聞かれるようになってきました。お盆が過ぎてから、お寺はしばらく静かな日々が続いていました。

訪ねてこられる方々にも「今日は静かですわねー、お昼寝ですか？」なんて聞かれることも多々。空気ってあるのでしょうか？ 一昨年亡くなったサクラが元氣だった頃は玄關のチャイムの音がすると、けたたましい声で吠えていました...



ノンちゃんは母親のサクラと違って、まったく無駄吠えしない犬で、姿を見かけなければ、犬がいることすら感じさせないくらいおとなしい犬なので、真人君の声が聞かれないお盆後のお寺は本当に静かでした。

遠くて度々お里帰りできない久美さんがヤンチャな

二人を連れて里帰りしていたのです。

普段は六人家族に犬・猫(私)・ウサギ・カブト虫・熱帯魚がいます。生きものを飼うって本当に大変なことだなーと思います。私の食事は時間になると受け皿に出てくるようになっていのですが、久美さ

んや真人君がいないと、私は日によっては誰にも声をかけてもらえないのです。バーバは基本的に猫はあまり好きではないようです。八月も終わろうとする頃、また元気な声が聞こえてきました。

出かける前はほんの四、五歩くらいしか歩けなかった悠真君はすっかり歩けるようになり、ハイハイから卒業してしまいました。留守の間に三歳になった真人君は帰るなり「バーバと一緒に寝たい」なんて...

子供の育つ勢いというのもは周りの空気までも変えてしまうほど凄い勢いがあり、みんなの気持ちまで和やかにしてくれるものなんだなーと、しみじみと感じました。

編集 雑感

夏は暑いものが当たり前ですが、今年も暑い日が続きました。全国の最高気温は41.0度と記録更新。毎日のように気象予報士がテレビに登場し気温の予測、ゲリラ豪雨への注意を伝え続けました。日本の世界の天候はどうなっているのかと危惧が募ります。

それでも梨、葡萄といった秋の味覚が登場してきました。何れ暑さも収まり日一日と秋が深まって行くことでしょう。

昨年中学、高校、大学そして社会人になってからも飲み語らった友人を失いました。まだ六三歳、早すぎる旅立ちでした。新盆でお参りに行って来ましたが、未だに信じられない思いです。彼は発

病から間もなく、医師からの告知を受けました。私も寄る年に勝てず医師からの薬の処方を受けていますが、日常生活は至ってハツラツ、死を実感することはありません。ある日突然、死を突き付けられた時、どんな想いになるのかは想像も出来ません。

彼は告知を受けた時どんな想いであったのか。その後私が接して感じたことは、悟りと云うものはあるんだな。厳しい修行を積んだ仏門の高僧だけが悟りを感じるのではなく、自分の一生を見極めなければならなくなった時に、残り僅かな時間をどう生きるか、どう安らかに死を迎えるかを考えた時、悟りと云うものが生まれてくるものかなです。

告知後の一年半、彼は治療の苦痛や死への恐怖心はおくびにも出さず、家族との思い出作りを大切にしながら日々淡々と過ごしているようでした。私もその時悟りを感じることが出来るのか。毎日大切に生きてゆきたいと思います。

(高橋潔)

第六十四号、新年号は平成二十六年一月一日(水)発刊予定です